






# 令和4年度 地域コーディネーター等研修会

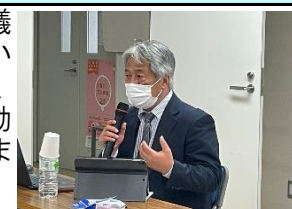
## 第1日目 「CS(コミュニティ・スクール)・地域学校協働活動を知ろう」

CS・地域学校協働活動A	CS・地域学校協働活動の必要性と愛知の現状
講義Ⅰ	愛知教育大学 教授 風岡 治 氏
<p>コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の意義や役割、魅力等についてお話いただきました。また、導入に向けた具体的な手順について、地域学校協働活動との関係性や委員選びのポイント等も含めてお話いただきました。地域とともにある学校づくりにおいては、「熟議」「協働」「マネジメント」が大切であり、コミュニティ・スクールの目的は大人や学校、地域が変わり、子供たちが真の生きる力を身につけ、誰もが幸せを感じられる社会を当事者として創ることにあることを学びました。大変わかりやすく丁寧に説明いただきました。</p>	
	
CS・地域学校協働活動B	わがまちのCS・地域学校協働活動① ～地域が学校づくりに、学校が地域づくりに関わる よさをつないで～
活動報告Ⅰ	みよし市学校教育課地域学校協働活動担当 山内 陽二 氏
<p>みよしの事例をもとに、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の具体を学びました。みよし市では、小学校1校と中学校3校でコミュニティ・スクールが導入されており、その導入にあたり、教育委員会と他の関係各課や関係機関との対話を重視し、連携体制の構築を図ったところに特徴があります。そのつながりが、小中学校における学習や行事等で大きな強みとなり、子供たちの成長や地域の方々の参画で成果をあげていることを実感をもって理解することができました。</p>	
	
CS・地域学校協働活動B	わがまちのCS・地域学校協働活動②
活動報告Ⅱ	岐阜市立岐阜小学校運営協議会会長 青山 朋宏 氏
<p>岐阜小学校のコミュニティ・スクールの実践を学校運営協議会会長の立場から御紹介いただきました。岐阜小学校では、教職員・保護者・地域住民が子供を中心にパートナーとして連携・協働し、コミュニティ・スクールを地域の生涯学習の場として位置づけています。「学び部」「安心・安全部」「地域行事部」等の取組により、子供や地域の大人が生き生きと活動している様子がよく分かりました。「現在の学校の姿が将来の地域の姿」という言葉に、コミュニティ・スクールの大いなる魅力を感じ取った参加者も多かったようです。</p>	
	

## 第2日目 「推進員・社会教育主事の果たす役割と展望」

CS・地域学校協働活動 マネジメントB	地域と学校で作るあげるCS、地域学校協働活動に社会教育主事が果たす役割 ～白川郷学園の取組をとおして～
講義Ⅱ	白川村教育委員会事務局 社会教育主事 新谷 さゆり 氏
<p>白川郷学園の様々な取組から、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動において社会教育主事が果たすべき役割について教えていただきました。社会教育主事は、人と人、人との、学校と地域、今と未来、夢と実現などをつなぐ、いわば「つなぎ職人」として教えていただきました。何のためにつなげるのか、熟議により共通の願いをもち、子供たちに関わる誰もが当事者意識をもって楽しく関わりながら、子供たちの夢やまちの未来をつないでいくことの大切さを学びました。</p>	
	
CS・地域学校協働活動 マネジメントA	さあ、地域コーディネーター(推進員)をやってみよう！ ～地域コーディネーターとして必要なさまざまな知識とスキル～
講義Ⅲ	特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵 氏
<p>豊富な経験を基にしたお話から、地域学校協働活動推進員・地域コーディネーターに求められる知識・スキル、あるべき姿について学びました。地域には「すごい」「おもしろい」「驚くような」人・もの・ことがたくさんあり、子供たちにそれらの“本物”に出会わせ、豊かな体験をさせることが主体的な学びにつながる。そして、そのつなぎをするのが地域コーディネーターであり、「ドキドキ」「ワクワク」を子供たちにも地域の大人たちにも与えられるような存在であってほしいと話されました。</p>	
	

第3日目 「学校を核にした地域づくり、まちづくり」	
地域づくり・まちづくりA	NPO法人として関わる地域づくり・まちづくり 中学生がリーダーに変わる瞬間 ～子どもたちだけで挑んだ名古屋市ビッグイベント成功の軌跡～
講義Ⅳ	NPO教育支援協会東海 代表理事 本多 功 氏
<p>「名古屋市生徒会サミット」や「チュー祭」の取組を通して、NPO法人が地域づくり・まちづくりに具体的にどのように関わってこられたかお話しいただきました。子供たちの当事者意識を育てるために、「場をつくり、場を守り、場を信じ、場にゆだねる」ことが、子供たちに関わる大人たちのファシリテートに求められるということを実践を通して教えていただきました。そして、その前提として「いつ、いかなるときも子供の成長を信じ抜くこと」が大切であることを学びました。</p>	
地域づくり・まちづくりB	学校を核にした地域づくり、まちづくり ～ミライを見据え、今からできること、すべきこと～
講義Ⅴ	長浜市立余呉小中学校(鏡岡学園) 主任事務主査 滋賀県教育委員会CSアドバイザー 松田 幸夫 氏
<p>9年間を通してふるさとについて学ぶ「よごふるさと科」や、学校・家庭・地域がともに熟識に取り組む「よごトーク」、学校を核とした地域づくりの実践「通学合宿」等の取組を御紹介いただきました。「思い」や「目標・ビジョン」を共有し、学校を核とした一体となった実践から、関係者が当事者意識をもって「熟識」を重ねること、学校と地域の人々が「協働」して活動すること、学校が組織としての力を発揮するための「マネジメント」が大切であることを学びました。学校を核として地域が変容していく姿が大変印象に残りました。</p>	



第4日目 「地域全体で子供たちの成長を支える仕組み(1)」	
子供を支える仕組みB	放課後の子供たちを支える地域のしくみで、 子供がかわる！大人がかわる！地域がかわる
講義Ⅵ	文教大学人間科学部人間科学科 教授 金藤ふゆ子 氏
<p>地域全体で子供を支えるしくみが必要となる背景に、子供を取り巻く問題の深刻さがあることや、体験的な学びにより子供たちの自立性、協調性、自己肯定感等が高まるとともに、関わった大人たちの子供たちに対する関心も高まるなど、多くの効果もたらされることについて教えていただきました。地域の学びを通じた多様な主体との連携・協働による学び合い・支え合いが子供・大人・地域全体を元気にすること、そのために様々な主体をつなぐ「架け橋」として体験的な学びの場を保障することの大切さを学びました。</p>	



第5日目 「これからの地域学校協働活動の在り方」	
連携・協働の展望B	地域学校協働活動で新しい地平を拓く
講義Ⅶ	愛知教育大学 教授 大村 恵 氏
<p>宮原誠一氏や東井義雄氏の著書や実践等から戦後の社会教育の課題についてお話しいただきました。また、学生の学習後のコメントや教職大学院での取組から見えてきた地域学校協働活動の様々な課題について教えていただきました。子供の生きづらさを理解し、安心・安全な学校や家庭、「第三の領域」・居場所づくりを進めることが大切であり、社会教育が果たすべき役割は大きいこと、子供と向き合う大人が育つための実践をデザインすることが大切であることを学びました。</p>	
連携・協働の展望A	子供を中心にすえた学校づくり、地域づくり ～多様な主体との連携・協働により育つ子供、地域の創生～
講義Ⅷ	野洲市社会教育委員会委員長・CSマイスター 高木 和久 氏
<p>コミュニティ・スクールの導入が進む中、様々な課題が浮かび上がっていることを受け、コミュニティ・スクールの推進について「ビジョン」「システム」「マネジメント」の視点からお話しいただきました。子供の主体性と自主性を大切にされた学校・家庭・地域づくりを進めること、学校・家庭・地域が課題と目標を共有し、同じ価値観で子供を育てる風土づくりを進めることが大切であることを学びました。そして、今こそ子供の主体性を重視した活動を復活させ、大人も子供も皆で考え行動することが大切だと教えていただきました。</p>	



**第6日目****「地域全体で子供たちの成長を支える仕組み(2)」**

連携・協働の展望B

子どもたちの豊かな学びを大切にした放課後子ども教室

講義IX・実地見学

豊川市教育委員会生涯学習課 山本 将史 氏

豊川市の取組をもとに、放課後子ども教室の具体について学びました。豊川市では、各小学校、中学校区に複数の教室が年間10回程度実施されています。指導員やサポーターの活動内容、予算、教室の内容等の運営の具体とともに、教室が抱える課題についても教えていただきました。後半は豊川市立中部小学校に移動し、放課後子ども教室の実際の様子を見学しました。子供たちや指導員たちの姿を間近で見ることで、豊川市の工夫や放課後子ども教室の意義や魅力を実感をもって理解することができました。

